

ようこそ日本へ！

日本ブームなのだそうだ。

しかもデジタル家電を買い求めるだけでなく、「日本文化」なるものを目当てにご苦勞にも外国から観光にいらっしゃるといふ。

相撲部屋見学、寿司握り、陶芸、和太鼓などの体験ツアー。なかなか興味深そうだ。が、はたしてこれらを体験したことのある日本人はいったいどれくらいいるのだろうか。

テレビでやってたが、欧米人らしき白人のお姉さんが手ぬぐいのアネさんかぶりに割烹着で料理体験にいそしんでいた。イマドキそんなかっこうで料理している日本人がどれほどいるのか。

まあ日本人も韓国に行けば焼き肉、中国に行けば北京ダックを食べ、カリフォルニアに行けばカウボーイハットをかぶっているのだから大差ないと言えない。ディズニー国に行けばネズミも口をきくと思ひこんでいるのと同じようなものだ。

それにしても、思えば皮肉なものである。日本が経済大国といわれた時代には、経済は一流、文化は二流、キティはサンリウと言われたものだった。経済がイマイチになって脱力したとたん日本文化に世界が目を向けるとはね。

もちろんアニメやマンガが大きな要因だろう。それが引き金になってそれ以外の日本の文化に目を向け始めたのだと思う。あるある大事典で言っていたから間違いない。ヨン様にハマったことがきっかけで韓国語を習い始めたり、イノウエに出会ったことがきっかけで英語が嫌いになったりというようなことがあるのと同様だ。東スポに書いてあったから間違いない。マンガで日本語を学んだために、「貴様」が高貴な二人称代名詞だと思ひこみ、日本に来てにっこり笑って「貴様は・・・」と話しかけた外国人の話が新聞に出ていた。ちなみにこちらは某大新聞。

漢字はこういった誤解を招くが、これもはやっているそう。意味がわからなくてもかっこいいらしい。ロシアでは「〇〇畳店」などと車体を書いたままの日本の中古車が走っていると報じられていた。かっこいいからわざわざ消さないという。日本でもわけのわからない英語の書いてあるTシャツがたくさんあるように、漢字もファッションなのですな。そういえば、シドニーに日本語で「永遠に若者」と胸に大きく書いてあるTシャツを着た白人の若者がいた。ほしい、そのTシャツ。